

動的指鍼療法

動的指鍼療法の実際

患者さんの訴える痛みの部位、違和感などがある部位を軽く擦りながら体表に近い筋肉の浅層にある‘痛みを発する筋肉のしこり’を先ず見つけ出します。施術者(私)はその筋肉のしこりを指先にて軽く押しながらもう一方の手でその場所に近い腕などを持ってそこに最も近い関節に動きを加えたり、患者さんに動きを指示して関節を動かしてもらいます。

そうすると筋肉の深層部に隠れていたしこりのピンポイントが浮き上がるように現れてきます。おこがましい事を云うようですが、この深い所にある**トリガーポイント**を患者さん自身で探し当てることはまず出来ません。

今度はその浮き上がってきた**トリガーポイント**を指先や手のひらで押しながら、先と同様に近接する関節に動きを加え数回繰り返す。以上が皆さんに私が行っている治療法の一つ“動的指鍼療法”のやり方です。この療法は“画像診断では説明のつかない痛み”として医学会などで最近特に注目され始めた新しい概念、筋・筋膜性疼痛症候群(MPS)に大変効果的であると自負しております。

考察

来院して下さるほとんどの方が痛いのに我慢に我慢を重ねていたり、毎日のように汗水流して自分の身体を酷使して働いておられます。一線から退かれたお爺ちゃんお婆ちゃんは機械化が進む前ですから、本当に大変だったと思いますし曲がってしまった節々を拝見するたびに当時のご苦労の様子がしのべれます。都市部で開業している先生方と治療の話をするとう「手技療法などは軽目でないとダメだ!」という事を仰います。事務系のサラリーマンであればそれでいいのでしょうか。筋の浅層部由来の痛みなどであれば軽目の、いわゆる涎の出るような気持ちいい治療でも構わないでしょうし治癒に結びつける事も出来るでしょう。しかし我慢をしているうちに症状を悪化させてしまったり、肉体をフルに使い体を壊してしまった人たちには、単に心地良い治療では根本的に『治す』という事には結びつきませんでした。そこで‘トリガーポイント療法、ASTR、ディープティシュー・マッサージ’などを参考にして試行錯誤を繰り返し、このような普段の臨床の基となる治療法を考えました。